

令和4年度(令和3年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	31-3																																			
PDCA	主要事業名	生涯学習推進事業	部課名	教育部 生涯学習課	担当	山本																																				
					内線	23-7341																																				
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進 全体事業期間： 令和 3 年度 ~ 3 年度 全体事業費等： 810 千円 会計 一般会計 歳出科目 09.05.01.09.01 3か年実施計画（当該年度事業費等）： — 千円																																									
	事業概要等	事業概要： 第3次半田市生涯学習推進計画に基づき、市民の求める生涯学習機会及びその情報の提供を目的とし一人ひとりが自らを高めるための講座の開設や、学習の成果を地域で積極的に生かし「自分づくり」「ひとづくり」「まちづくり」につながるような学習の支援を進める。																																								
		事業目的： 市民の生涯学習を総合的に推進することを目的とする。																																								
		事業内容： 生涯学習推進協議会で第三次半田市生涯学習推進計画の進捗を図ると同時に、学習機会や情報の提供の場として生涯学習講座等を開催する。																																								
		問題点・課題等： ゲストティーチャーの登録を整理しつつ、講座の分野拡大を図るよう努め、幅広いニーズや年代に合った講座を開設し、市民が主体的に学び続けようとする環境を整備する必要がある。																																								
	予算額	主要事業とする理由																																								
	810 千円	市民の求める生涯学習機会及びその情報の提供を行うことで、自分づくり、ひとづくり、まちづくりにつながるため。																																								
	財源内訳	得られる成果																																								
	市費	市民の学習意識の醸成につながり、「自分づくり」「ひとづくり」「まちづくり」につながる。																																								
	642 千円	目標値や目指すべき状態																																								
	国費	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民企画講座数</td> <td>実績値 60</td> <td>24</td> <td>—</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 95</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ゲストティーチャー登録件数</td> <td>実績値 183</td> <td>155</td> <td>—</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 190</td> <td>190</td> <td>190</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							令和元年度	令和2年度	令和3年度	単位	市民企画講座数	実績値 60	24	—	件		目標値 95	50	50	件	ゲストティーチャー登録件数	実績値 183	155	—	件		目標値 190	190	190	件		実績値					目標値			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	単位																																					
	市民企画講座数	実績値 60	24	—	件																																					
		目標値 95	50	50	件																																					
	ゲストティーチャー登録件数	実績値 183	155	—	件																																					
	目標値 190	190	190	件																																						
	実績値																																									
	目標値																																									
138 千円																																										
県費																																										
0 千円																																										
その他																																										
30 千円																																										
D 値得られた成果と実績	決算額	得られた成果																																								
	499 千円	市民同士で学び教え合う機会を設けることができ、市民の学習意識の醸成が徐々に図られている。																																								
		成果指標																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民企画講座数</td> <td>実績値 35</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 50</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ゲストティーチャー登録件数</td> <td>実績値 150</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 190</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>							令和3年度	単位	市民企画講座数	実績値 35	件		目標値 50	件	ゲストティーチャー登録件数	実績値 150	件		目標値 190	件																				
		令和3年度	単位																																							
	市民企画講座数	実績値 35	件																																							
		目標値 50	件																																							
	ゲストティーチャー登録件数	実績値 150	件																																							
		目標値 190	件																																							
C 課題の整理	事業の評価・課題	C ゲストティーチャーが中心となって企画・運営する「まなびとゼミ」は新型コロナウイルス感染症対策を施して講座開設にいたり、前年度に比べて開設件数は増加したが、目標値は達成できなかった。 また、ゲストティーチャー登録件数は前年度に比べ減少し、同じく目標値の達成にはいたらなかったが、新規登録者が7件あり、うち3件は「まなびとゼミ」の講座開設に結び付けることができた。 なお、ゲストティーチャーの活躍の場として既存の「まなびとゼミ」にとどまらず、美術展での体験講座や文化振興事業での活用を積極的に図ることができた。																																								
A 今後の課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 ゲストティーチャーの登録件数の減少に歯止めをかけ、登録制度の趣旨に合った事業展開をしていくため、ゲストティーチャーの活躍の場を充足すると同時に、在宅でも受講可能なオンライン講座の開設や講座開設の支援などを図っていく。 また、各種生涯学習講座の開設にあたっては、社会情勢や市民ニーズにマッチしたテーマの選定や、講座への受講価値を高める工夫を検討する。																																								
	観点別評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">必要性</th> <th colspan="2">有効性</th> <th colspan="2">効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①市の関与の妥当性</td> <td>妥当</td> <td>④上位施策への貢献</td> <td>大きい</td> <td>⑦コスト</td> <td>ない</td> </tr> <tr> <td>②市民ニーズ</td> <td>高い</td> <td>⑤成果向上の余地</td> <td>ない</td> <td>削減余地</td> <td>※対象・手段の変更</td> </tr> <tr> <td>③休廃止の影響</td> <td>大きい</td> <td>⑥類似事業の有無</td> <td>ない</td> <td>⑧受益者負担適正化余地</td> <td>ない</td> </tr> </tbody> </table>						必要性		有効性		効率性		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト	ない	②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	削減余地	※対象・手段の変更	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない											
		必要性		有効性		効率性																																				
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト	ない																																			
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	削減余地	※対象・手段の変更																																			
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない																																					

目標項目（予算計上時に作成）
予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用